

FP まつもと通信

ちょっと得する「保険」や「年金」についての話題をお届けします。

ご挨拶

11月30日は「年金の日」（いいみらいの語呂合わせ）です。厚生労働省のHPを見ると、“国民一人ひとり、「ねんきんネット」等を活用しながら、高齢期の生活設計に思いを巡らす日”とあります。

今年ほど多くの方が年金について関心を持ったことはなかったのではないのでしょうか？

年金ネットや年金定期便などを活用してどのような準備をしておけば良いか検討しておきたいですね。

お手元に保険料控除証明書は届いていますか？

保険料控除証明書は年末調整や確定申告に必要になります。再発行には時間がかかることがあります。もしお手元にない場合には早めにご連絡ください。

令和元年度「年金の日」ポスター（厚生労働省）



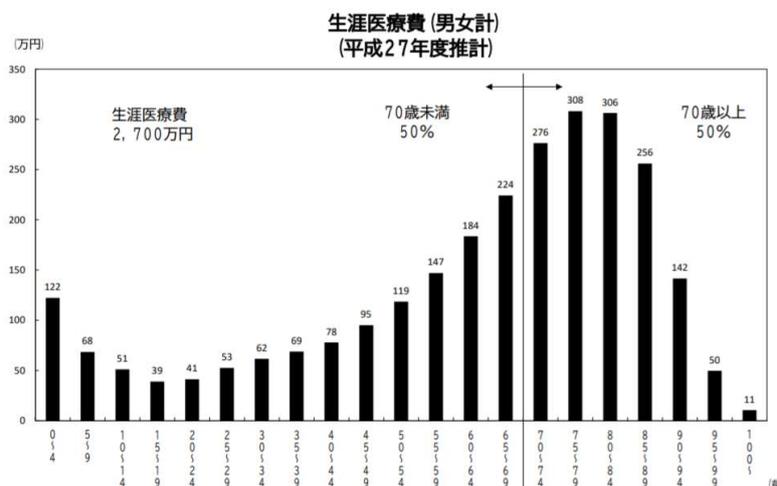
今月号のちょっと気になるお金のコラム

老後資金の準備を始めたいのだけど投資は怖い、そんな方はまず、積立投資から始めてはいかがでしょうか？今月は積立投資のメリットを整理しました。

生涯医療費は2700万円

年金とともに気になるのが老後の医療費です。年齢とともに医療機関にかかる頻度が高くなるのはある意味自然なことです。

下図は、H27年度の生涯医療費（人が一生の間に使う医療費の総額）を表したグラフです（厚生労働省）。
https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/shougai_h27.pdf



人は一生涯に2700万円もの医療費をつかっているのですね！

その半分は70歳以上で使っています。現在の自己負担割合は1割～3割（年齢や所得によって異なる）ですから約150万円～400万円ほどの医療費の準備が必要になります。

今後については、負担割合の上昇や高額療養制度の見直しなどによる負担増、が議論されています。

年金と合わせて高齢期の医療費負担についても今後の制度の方向性を見据えた準備をしておきたいですね。



FP 松本相談センター
CFP・IFA（金融商品仲介業）
媚山裕之

〒390-1702

長野県松本市梓川梓856-26

0263-76-1250 090-8741-7358

info@fp-matsumoto.com

<https://fp-matsumoto.com>

2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすい」と多くの受講者から支持を得ている。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

積立投資の推移



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2019年8末	300,000	291,276	297,999	307,032
2019年9末	310,000	315,001	317,211	320,452
2019年10末	320,000	333,140	332,262	331,712

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

大幅に値下がりした場合

積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

10月の株価は日米とも堅調でした。

	日経平均	NYダウ	ドル円
9月末	21,755.84	26,916.83	108.06
10月末	22,927.04	27,046.23	108.02
騰落率	5.38%	0.48%	

10月は月初大きく値下がりして始まりましたが、月を終えてみると日米とも堅調な値動きでした。

米中通商交渉の部分合意への期待、米国の利下げ観測、英国の合意なきEU離脱懸念の後退、また米国企業の7-9月期の決算も総じて予想を上回ったこと、などを好材料として株価は値上りしました。

今後についても日々のニュースで株価は動きますが、値動きに惑わされずに積立を継続することが長期の資産形成では大切です。

新しく積立投資を検討している方から以下のような質問を頂きました。

過去最高値になっているが今から始めて大丈夫ですか？

下記はニューヨークダウ平均株価の10年間の推移です。2010年に1万ドルだった株価は10年間で約27,000ドルまで上昇しています。これだけの期間上昇をつづけているので、そろそろ下がるのでは、と思っても不思議ではありません。



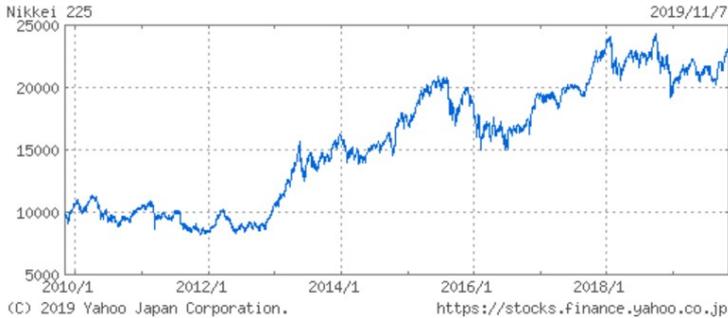
(C) 2019 Yahoo Japan Corporation.

<https://stocks.finance.yahoo.co.jp>

当コラムは、商品選択の考え方、価格変動やニュースなどに対応するべきかについての一つの考え方をお伝えするもので、特定の運用商品、運営管理機関を推奨するものではありません。また、特定の商品の将来のパフォーマンスを約束するものでないことをご理解の上、ご覧ください。記載の情報（税制・社会保障制度・金融商品・マーケット・価格情報等）は発行日時点での情報に基づくもので将来は変更になることもあります。数値は公表されているデータに基づき当社にて計算・加工をしていますが、正確性を保証するものではありません。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

こちらは日経平均株価の同じく10年間の推移です。



2010年の1万円前後から約23,000円まで上昇しています。特に日本株はバブル崩壊後の長期低迷を経験しているため「そろそろ下がるかもしれない」、と感じるかもしれません。

一時的な株価の上下を当てることで利益を得ることを目的としているなら様子を見るのも一つの方法ですが、**長期の積立投資の場合、値動きの予想は不要**、と考えてよいのではないのでしょうか。

理由1 株式は長い目で見れば上昇することが期待できる

株式は、上がったたり下がったりして結局もとに戻ってしまった、というのではなく、日々の値動きはあるものの、長期的には上がることが期待できるもの、と考えることができます。

何故なら、株式は企業や経済の成長を反映するものだからです。株式会社にお勤めの方はよくわかると思いますが、来年の目標は基本的には常に今年より高いですよ。

仮に心配していた通りに値下がりしてしまっても、値下がり前の利益水準を取り戻し、さらに将来についても良い展望が持てるようになれば株価はまた上がり始めるはずですよ。

理由2 積立投資では買いのタイミングの心配は不要

少し極端な例ですが、下表のように価格が10,000円のものに5,000円に値下がりし、元の10,000円に戻った例を見てみましょう。購入するのは毎月1万円です。

	1か月目	2か月目	3か月目
購入金額	10,000	10,000	10,000
購入累計額	10,000	20,000	30,000
価格	10,000	5,000	10,000
購入口数	1	2	1
保有口数	1	3	4
評価額	10,000	15,000	40,000
評価損益	0	-5,000	10,000

2か月目には懸念していたように値下がりしてしまいました。その結果2万円の投資額が15,000円になってしまいました。ところが3か月目、元の10,000円に戻っただけで反対に1万円のプラスになっていることがわかります。

値下がり時には同じ1万円でも安い価格で多くの口数を購入することができたからです。

このような投資の方法をドルコスト平均法と言い、値動きの心配をせずに投資をする方法として有効であると言われています。

将来に向けて何か準備を、とお考えなら、当たるかどうかかわからない短期的な株価の値動きではなく、早く初めて沢山の口数を保有すること、に焦点を合わせて準備の検討をしてみたいと思いませんか？

*ここでいう株式とは個別企業の株式ではなく株式市場全体、株式という資産種類の特徴のことを指しています。

ちょっと気になるお金のコラム

まずは積立投資から

老後資金や教育資金の準備は、時間をかけて計画的に行うことが大切です。

しかしながらせっかく時間をかけて積立をしても、現在は「ゼロ」金利なので積立た金額以上にお金が殖えません。多少リスクがある商品を利用したほうが良いということは理解していても、

元本割れは怖い
投資には相当の勉強が必要なのでは

となかなか踏み出せない方も多いのではないのでしょうか？

このような方はまずは少額の積立投資を検討してはいかがでしょうか？

積立投資には以下のようなメリットがあります。

メリット1：少額から始められる

最初から大きな金額で初めて、マイナスになってしまおうとせっかく始めたにもかかわらず継続することが困難になってしまうかもしれません。

少額であれば、冷静に値動きなどを見ることもできます。また、値動きを経験しながら投資に慣れていくことができます。

メリット2：買いのタイミングが気にならなくなる

一括投資ではどうしてもなるべく安く買いたい、なるべく高く売りたい、という気持ちになり投資に踏み切れなかったり、明らかに悪いタイミングで投資をして失敗したと感じてしまうこともあります。

積立投資であれば当初設定した日に自動的に購入をするのでタイミングを自分で判断する必要が無くなります。

メリット3：値動きを気にする必要がない

「投資」というとどうしても経済やマーケットの動きを見ることが必要だと思うかもしれません。

しかしながら積立投資の場合は、マーケットの値動きに煩わされたり、ストレスを感じることなく投資を始め、継続することができます。

通常であれば購入した商品が値下がりしたらがっかりすることが多いと思います。

ところが積立投資では、特に開始間もない時期での値下がり、安い価格で多くの口数を購入できるので「値下がりを歓迎」できるようになります。

投資をためらっていた最大の理由である値下がりを歓迎できるのであれば、怖いことは無くなりますよね。

なるべく早く始めましょう

このように積立投資では、一般に考えられている投資の怖い点、難しいと思う点を心配せずに投資を始めることができます。

下表は毎月1万円を積立てた場合の期間と利回りによる違いを表しています（単位万円、千円以下切捨て）。

	0%	2%	4%
10年	120	132	147
20年	240	294	366
30年	360	492	694

この表を見てもわかる通り、積立期間を長くすれば、

低い利回り（リスクが小さな商品）でも月の掛金が少額でも

大きく殖えることがわかります。

老後資金など、必要になる時期がわかっているものに対しては、なるべく時間をかけて準備することが大切です。

どのような商品を利用すればよいの？
自分の場合はいくらぐらいなら心配なくできるの？
その他注意点は？

など気になる方は是非お問合せください。



お金のこと、年金のこと、保険のこと、 すっきりしたい方、安心したい方は無料FP相談をご利用ください

- ✓ 保険料を払いすぎているか確認したい
- ✓ 自分が加入している保険がどのような時にでるのか確認したい
- ✓ 年金がいくらぐらいもらえるのか知りたい
- ✓ 年金が不安だがどのように準備したらよいか知りたい
- ✓ 火災保険や自動車保険のお得な入り方を知りたい
- ✓ 確定拠出年金の商品選びについて教えて欲しい
- ✓ その他



このようなことで少しでも気になることがある場合はご相談ください。ニュースレター会員の方向けに無料でFP相談を行っています。

ご相談事例

- 昔に入った生命保険を見直して毎月の保険料が大幅にダウン。
- 年金定期便の見方がわかり、具体的に老後資金準備のイメージがつかめた。
- 最近の医療制度や医療技術に合わせた保険に変更でき安心した。

FP無料相談 お申込

ご確認したい項目に、必要事項をご記入の上、ファックスでお申込ください。折り返しご連絡を差し上げます。

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 生命保険のお得な入り方 | <input type="checkbox"/> 年金定期便の見方 |
| <input type="checkbox"/> 加入生命保険の内容を確認したい | <input type="checkbox"/> 老後資金の準備について |
| <input type="checkbox"/> がん保険・先進医療保険について | <input type="checkbox"/> 教育資金の準備について |
| <input type="checkbox"/> 損害保険のお得な入り方 | <input type="checkbox"/> 年金商品の選び方 |
| <input type="checkbox"/> その他 | <input type="checkbox"/> 確定拠出年金の商品選びについて |

お名前

電話番号

メール

 (ブロック体でご記入ください)

勤務先

お役職

お問い合わせフォームはこちら⇒
<http://fp-matsumoto.com/contact/>



↓ FAX:050-3730-0380 ↓

個人情報の利用目的：当該サービスを提供。当社サービスのご案内